

平成29年度全国学力・学習状況調査結果からみる 学力の傾向と対策について

阿南市教育委員会

この資料は、平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力の傾向をまとめたものです。阿南市と全国の平均正答率を比較することによって、特に明らかであったものについて説明しています。

調査内容

1 小学校（6年生が対象）

- (1) 学力調査
 - ・国語（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
 - ・算数（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
- (2) 質問紙調査 ・学習意欲, 学習方法, 学習環境など学習に係る態度全般

2 中学校（3年生が対象）

- (1) 学力調査
 - ・国語（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
 - ・数学（ Aは「知識・技能」 Bは「活用」 ）
- (2) 質問紙調査 ・学習意欲, 学習方法, 学習環境など学習に係る態度全般

■1 小学校について

(1) 全体的な傾向

- 1 国語では、国語Aにおいては、全国平均を上回っており、国語Bにおいては、全国平均とほぼ同じです。
- 2 算数では、算数A・Bとも、全国平均を上回っています。
- 3 回答欄に記入がない無回答率は、学力調査・質問紙調査とも、全国平均を下回っており、問題に対して最後まであきらめずに頑張って取り組もうとする傾向がみられます。

(2) 学力調査

- 国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」が全国平均より上回っています。特に学年別配当表に示されている漢字の読み書きの設問では、よい結果になっています。しかし、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す設問では、全国平均を下回っており、「話す力」を育成することが必要です。
- 算数では、「図形」、「数量関係」が全国平均より上回っています。特に、正

五角形や立方体の性質の設問では、よい結果となっています。しかし、割合を比較したり、解釈したりして回答する設問では、全国平均を下回っており、一層の習熟が必要です。

(3) 質問紙調査

- 将来の夢や目標をもっていたり、授業で学んだことをほかの学習や普段の生活で生かそうとしている児童の割合は、全国平均を上回っています。家族と将来のことについて話をしたり、家族が授業参観や運動会等の学校行事に参加をしたりする児童の割合もこれに準じていることから、良好な家族関係がその背景にあることがうかがわれます。
- テレビやゲーム、スマートフォンなどの使用時間は、全国平均を下回っており、学校の宿題や予習・復習をしていると回答した児童の割合は、全国平均を上回っています。しかし、実際の1日あたりの家庭での学習時間や読書時間は全国平均を下回っており、家庭での過ごし方を更に考えていく必要があります。
- 算数の勉強が好きで、授業の内容がよく分かると考えている児童は、全国平均を上回っています。それに反して、国語の勉強が好きではなく、作文や説明について苦手だと考えている児童は、全国平均を上回っています。「言語能力」の育成に更に取り組む必要があります。

■2 中学校について

(1) 全体的な傾向

- 1 国語では、国語Aにおいては、全国平均とほぼ同じですが、国語Bにおいては、全国平均を下回っています。
- 2 数学では、数学A・Bとも、全国平均とほぼ同じです。
- 3 回答欄に記入がない無回答率は、学力調査では、国語・数学とも全国平均を上回っており、質問紙調査では、全国平均とほぼ同じです。問題に対してあきらめずに頑張ろうとする態度を育てることが必要です。

(2) 学力調査

- 国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」が全国平均をわずかに上回っています。楷書と行書との違いを理解したり、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使ったりする設問では、よい結果になっています。しかし、集めた材料を整理して文章を構成したり、事実や事柄を相手に分かりやすく伝えるように工夫して話したりする設問では、全国平均を下回っており、「書く力」や「話す力」の育成に取り組むことが必要です。
- 数学では、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」全ての領域において

全国平均をわずかに下回っています。数量関係の正負の理解や整式の加法・減法の設問では、よい結果になっています。しかし、図形の証明や性質の解釈、数学的な表現を事象に即して説明する設問では、全国平均を下回っており、「数学的な思考」を育成することが必要です。

(3)質問紙調査

- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同じです。しかし、地域の行事に参加したり、ボランティア活動に参加したりする生徒の割合は、全国平均を下回っています。生徒が地域社会に貢献できるような機会や場を設定することが必要です。
- テレビやゲーム、スマートフォンなどの使用時間は、全国平均を下回っていますが、学校の宿題や予習・復習時間についても全国平均を下回っています。読書の時間については全国平均とほぼ同じですが、1日あたり30分以内と回答している生徒が全体の3分の2以上おり、家庭での過ごし方を更に考えていく必要があります。
- 数学の勉強は大切で、授業の内容がよく分かると考えている生徒は、全国平均を上回っています。また、国語の勉強が大切で、社会に出たときに役立つと考えている生徒も全国平均を上回っています。しかし、作文や説明、話し合い活動が苦手だと考えている生徒は、全国平均を上回っています。「言語能力」の育成に取り組む必要があります。

今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、保護者にその内容をお知らせするとともに、明日からの授業の改善に各校が創意工夫をして取り組みます。
- 2 市の指定研究事業「学力向上（H28・29指定 新野小学校）」や県の指定研究事業「学力・学校力支援事業（H27～29 阿南第一中学校区小中学校）」等の研究成果を市内の各学校に広報・普及し、教師力の向上に取り組むことにより、市全体の学力向上に取り組めます。
- 3 基本的な生活習慣や読書習慣の育成、家庭学習の充実等に向けて、各校のHPや学校だより等での情報提供に取り組めます。